



1. 貧困をなくそう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
13. 気候変動に具体的な対策を 15. 陸の豊かさも守ろう



ソロモン諸島の森林は、海外企業による商業伐採によって急速に失われつつある。写真は蝦名さん(左)と伐採企業の労働者、森林研究省スタッフ。

木を見て森を見ず

ソロモン諸島は南太平洋に浮かぶ小さな島嶼国です。国土面積に対する森林の割合が約78パーセントと豊富な森林資源を有している同国では、外貨獲得の手段として多くの丸太を輸出しています。しかし近年は伐採面積の増加による自然環境への負荷の増大などのために、丸太の輸出に依存した経済からの脱却が課題となっています。

私は青森県庁で林業職員として勤務した経験を生かし、青年海外協力隊員として同国の森林研究省とともに、①森林伐採地域のモニタリング、②伐採後の再造林、③木材等の加工促進による持続的な森林資源管理に向けた取り組みを継続してきました。また、現地では認知度の低かったキノコや木炭などの試験生産を行い、これまで利用価値がないものとされていた細めの丸太を有効利用していく機運をつくる工夫をしました。こうした活動は、木炭生産と一緒に取り組んできた同僚職員とともに国内の新聞でも紹介されました。新しい試みを広く伝えられたことは、うれしい思い出です。

日本では、今なお多くの木材を諸外国から輸入しています。輸出元となる異国の中ではどのような開発行為が行われているのか、木材を使用するわれわれもまた、その樹木が育つ森について考えていく必要があります。

今月の投稿(文・写真) 蝦名雄二さん
林業職員として青森県庁に7年間勤務した後、青年海外協力隊に参加。ソロモン諸島の森林研究省地方事務所で業務全般への協力や、森の恵みを生かした産品の生産などに取り組んでいます。

あなたの投稿をお待ちしています！

「わたしが見つけたSDGs」に写真と文章をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題やその解決に向けた取り組みのエピソードなど、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。

応募要項: 写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。

*写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先 ▶ ML_JICAPR@jica.go.jp (『mundi』編集部宛て)



SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。

持続可能な開発目標(SDGs)と
JICAの取り組み

